

日本の貿易収支や経常収支で赤字が続いている。日本は長い間、貿易収支や経常収支の黒字国であった。それが突然の赤字である。高齢化によっていずれば赤字になるだろうと言われてきたが、少し早すぎるような気もする。このまま赤字傾向がずっと続くのではないか。そう考え始めている人も少なくない。

貿易赤字が悪いわけではないが、赤字という言葉が何となく悪いことを連想させる。貿易赤字の評価という問題にここで踏み込むつもりはない。ただ、日本の貿易収支や経常収支が今後どのような動きを見せるのか、議論を整理しておく必



伊藤元重の

## ニュースな見方

### 貿易赤字を読む

要がある。

貿易赤字が拡大している

主たる原因は原油や天然ガ

スの輸入が増えているから

だ。原発の停止をカバーす

るため、火力

による発電量

を増やさざる

をえない。そ

のため、燃料の輸入額が膨

らむ。燃料輸入額が膨らん

でいることは大きな問題だ

が、貿易収支は燃料輸入だ

けで決まるわけではない。

それ以外の要因はどうなっ

ているのだろうか。今後の

日本の貿易収支や経常収支

の動きを考える上で、少な

くとも3つの重要なポイントがある。

1つは燃料輸入の今後の

動向、2つ目は為替レートの

影響、そして3つ目は景

気の影響である。まず、燃

料コストの増加が経常収支

に及ぼす影響だが、価格や

の赤字幅を増やす。これが

今の状況である。その場合、

輸入額の増加(円建てでみ

た場合)、あるいは輸出額

の減少(ドル建てでみた場

合)の影響が大きく、貿易

収支や経常収支は赤字幅を

拡大させる。しかし、時間

による影響は大きく異なる。

一般的に一時的なコスト

増は貿易収支の赤字幅を大

きくするのに対して、エネ

ルギーコスト増加が長期的

業や消費はそうしたコスト

に続くと考えられる場合に

は、貿易収支の赤字幅への

増により強く反応し、輸入

量の縮小の効果が出てき

る。原発の再稼働などでい

れ貿易赤字幅は縮小するは

ずれ燃料の輸入額はもとに

戻ると考えれば、燃料コス

トが円安になっても輸出

の数量がすぐに変化する

ので確定的なことは言え

ないが、エネルギーコスト

の影響や為替レートの動き

を考えると、日本の貿易赤

字幅はそろそろ縮小すると

考えられるのだが。

(東大大学院 経済学研究科教授)

## 燃料・為替・景気の複眼で

が、これは拡大している(あるいは縮小しない)のは、日本の景気の問題が拡大基調にあることと無関係ではない。以上を整理すると、景気の影響がある

この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。